

## 症例報告

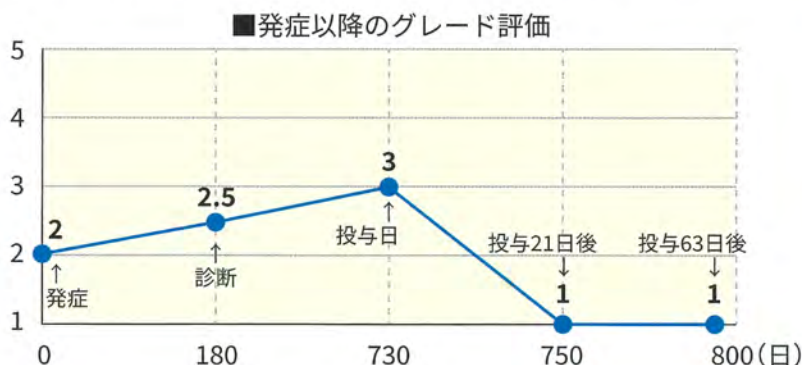
前田獣医科医院 院長 前田浩人 先生

### 症例1

ポメラニアン 14歳 3.65kg オス去勢

#### 【経過と症状】

2021年1月頃から腰部と後肢の異変が見られ、同年6月に後肢麻痺による歩行障害が進行し腰部椎間板ヘルニアグレード(以下G) 2.5と診断した。13歳と高齢のため手術適応ではないと考え、内科治療(ガバペンチン他投与)を開始したが、歩行障害等は徐々に悪化した。そこで2023年1月STEMキュア®1mLの投与を開始した。投与計画は7日ごとの3回投与であったが、飼主が2回目以降の投与を拒まれた。



飼主の声

投与63日後



#### 【主治医コメント】

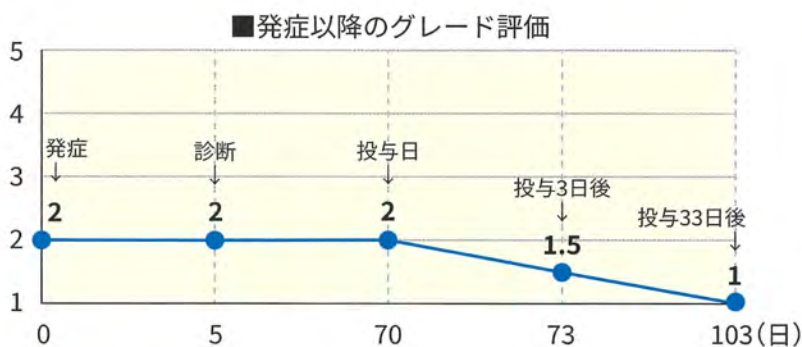
発症から約2年が経過し、症状の悪化は患犬のみならず飼主のQOL(生活の質)も著しく低下をもたらしたため細胞治療を提案した。飼主は論文を探すなど自身でよく調べたうえで、家族と話し合い本製品の治療を希望された。投与後21日目に明らかな歩行改善が認められ著効と評価した。副作用は認められなかった。

### 症例2

パピヨン 15歳10カ月 2.75kg オス去勢

#### 【経過と症状】

2017年4月頃から後肢にやや異変が始め、2022年12月に左前肢の跛行及び両後肢のふらつき症状が顕著になり2023年1月に来院した。腰椎4-5椎体及び頸椎6-7椎体の脊椎症が認められG2と診断した。高齢のため手術適応ではないと考え、内科治療(プレビコックス等投与)を開始したが、飼主が連日投与を懸念され疼痛が継続した。そこで同年3月STEMキュア®1mLの投与を開始した。投与計画は7日ごとの3回投与であったが、飼主が2回目以降の投与を拒まれた。



飼主の声

投与33日後



#### 【主治医コメント】

15歳を超えているが患犬は基礎疾患や合併症がなく身体状況が良いため治療上の有益性が安全性を上回ると判断し、飼主も承諾したうえで本剤を投与した。本製品投与3日目頃から歩行の改善が認められ、4週後には前肢を宙に上げることや、走行もできるようになり著効と評価した。副作用は認められなかった。

## 症例報告

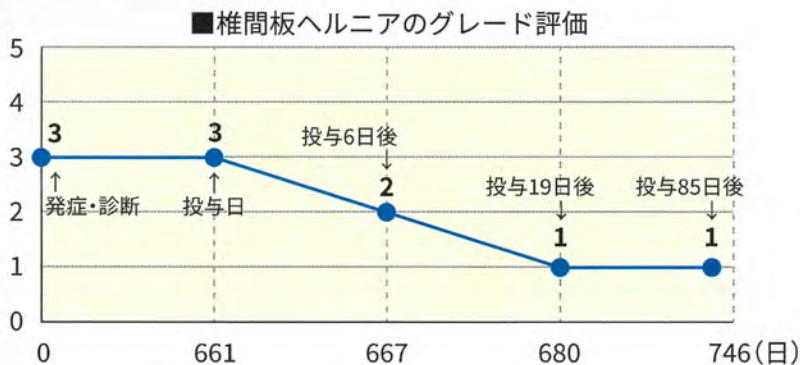
前田獣医科医院 院長 前田浩人 先生

### 症例3

パグ 14歳 7.7kg オス去勢 合併症:てんかん、僧帽弁閉鎖不全症、右眼緑内障

#### 【経過と症状】

2021年6月頃から左前肢と両後肢に不全麻痺が認められ、現病歴と画像から胸腰部椎間板ヘルニアグレード(以下G)3と診断した。高齢のため手術適応ではないと考え、内科治療(ステロイド、サプリメント等)を開始したが改善しないまま時間が経過した。2023年4月STEMキユア®2mLの投与を開始した。3回投与を計画し、1回目の投与にて改善が見られたため経過観察を行い、飼主の希望により2回目以降の投与は見合わせた。



飼主の声

投与19週後



#### 【主治医コメント】

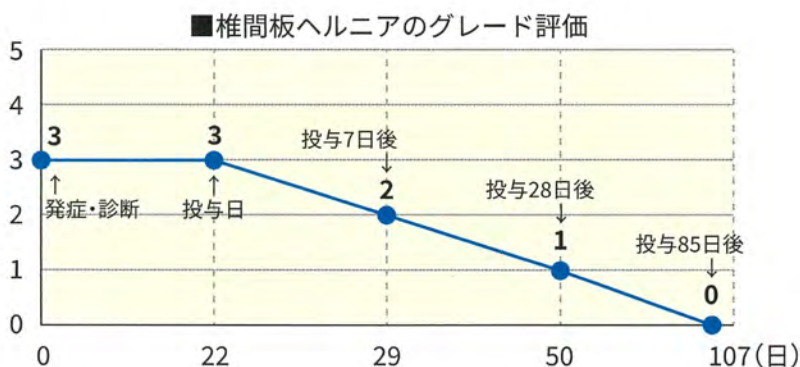
発症から2年程経過していたが、飼主の再び歩行させたいという強い意志により細胞治療を実施した。飼主は、投与2日後に立位での排便排尿と7日後にナックリングの改善を確認しており、19日後の受診時には明らかな歩行改善が認められ著効と評価した。高齢で複数疾患を合併しているが、本剤投与により副作用や他疾患への悪影響は認められなかった。

### 症例4

チワワ 10歳 2.85kg オス去勢

#### 【経過と症状】

2023年5月中旬に両後肢不全麻痺を急激に発症し、当日中に当院を受診し現病歴と画像から腰部椎間板ヘルニアG3と診断した。高齢のため飼主は手術を望まず、内科治療(プレドニゾロン等)を開始したが改善は見られなかった。同年6月STEMキユア®1mLの投与を開始した。3回投与を計画し、1回目の投与にて改善を見たため経過観察を行い、飼主の希望により2回目以降の投与は見合わせた。



飼主の声

投与120日後



#### 【主治医コメント】

歩行障害発症と排尿支障により悪臭やおむつかぶれも伴って、飼主もQOL(生活の質)が著しく低迷していた。初診時に内科的治療により効果がなければ細胞治療の選択肢もあることを説明し、発症1か月後に本製品の治療を希望された。飼主は投与翌日に歩行と7日後に自力排尿を確認しており、28日後の受診時には明らかな歩行改善が認められ著効と評価した。副作用は認められなかった。